

教科名（ 技術・家庭 ）

1 生徒の現状分析（授業の様子、定期考査、提出物等から見られる生徒の実態）

観 点	分 析 内 容
知識・技能	・定期考査の学習にしっかり取り組む生徒が増えたが、取り組まない生徒との二極化がみられる。 ・イメージをもったり先の見通しをもって作業を行ったりすることが苦手な生徒が多い。 ・作業に取り組みたいと思っているが、技能がついていかず、意欲と技能の差に悩む生徒がいる。
思考・判断 表現	・目的や状況に応じて、既習内容からその解決を目指して考えることが苦手である。 ・作業でわからないことは質問するが、なぜそうなるのかを考えたり、理由をみつけたりするのが苦手である。 ・基礎的な学習内容を活用して他の場面や自分の生活の中で深く考えることが苦手である。
主体的に学 習に取り組 む態度	・作業日誌や、振り返りシートを活用して、学習内容が定着した。 ・1年：学習内容を基に、自ら考え問題を解決しようとしている。 ・2年：実技には興味関心をもち取り組んでいるが、座学では主体的に考えたり、関心をもったりしにくい生徒もいる。 ・3年：問題に対して主体的に考え取り組む生徒が増えてきたが、理解力には差がある。

2 指導方法の課題分析

- （1）授業規律をしっかり行い集中力を高めた授業をする。作業では安全に行えるよう、事前に説明し指示を出す。
- （2）見通しをもった活動を行わせるように作業全体の流れを押さえるとともに、1時間ごとの目標をはっきりさせる。
- （3）生徒の興味・関心を高め、作業や講義形式の授業に意欲をもたせられるよう、ICT 機器を使用した題材や発問の仕方の工夫とともに指導内容の精選が必要である。
- （4）基礎的な知識・技術を生徒自身が活用できるよう ICT 機器を使用した教材・教具の工夫が必要である。理解の差があるため、丁寧に指導していく。

3 授業改善に向けての方策

< 1 年 >

- （1）各小学校での学習の内容・定着度・製作物を事前にリサーチし、授業内容や指導方法に生かす。
- （2）作業においては、作業工程表の手順を明確にさせ、見通しをもって作品を完成させるようにする。机間指導や生徒同士の教え合いを活用し、基礎的な技能を身に付けさせる。
- （3）見本となる作品例や段階標本を作成したり、ICT の活用、進行状況によっては各自がタブレットを使って振り返ったり確認しながら、基礎的技術が定着するようにする。
- （4）生徒作品の良いところを褒めるように心がける。生徒自身が自分の発想をどのように表現したら良いかを適切にアドバイスする。

< 2 年 >

- （1）導入部分で生徒の実生活に関連した内容を取り上げながら、生徒の意欲を高めるようにする。
- （2）拡大図や資料の効果的な提示により、生徒がイメージしやすく、理解が深まるような工夫をする。
- （3）生徒一人一人に応じたアドバイスをし、生徒作品のよいところを褒め、意欲的に取り組めるようにする。
- （4）既習内容を活用し、自分の生活で考え、技能の向上を目指す。

< 3 年 >

- （1）生徒が主体的に学べるように、具体的な事例や生徒の実生活に関連した内容を取り上げるようにする。
- （2）図や資料を適切に提示し、生徒がイメージしやすく、理解が深まるような工夫をする。
- （3）中学校3年間の集大成という意識を忘れずに、創意工夫のある作品づくりを行うよう、一人一人に適切なアドバイスを行う。

4 その他（放課後の時間や作品展などとの関連）

- （1）昼休み、放課後、長期休暇の時間を利用し、作業の遅れを取り戻すための補習の時間を確保する。
- （2）校内の展示発表会や優秀な作品は区展や都展に出展できることを知らせ、意欲をもって取り組ませる工夫をする。
- （3）苦手だと諦めたり妥協したりせずに、さらなる技術の向上を目指すように指導する。